



No. 21

びびぎ

ドラム缶工業会会報

中小型缶径種の現状及び集約のお願い

最近の中小型缶の生産径種は非常に多岐にわたっております。この機会に中小型缶メーカー各社の径種の現状及び問題点についてユーザーの方々にご理解いただくと共に、径種集約についてお願いを含めまして、提案させて頂くことになりました。

中小型缶生産品種の現状は、以下の通りとなっております。

中小型缶の現状

①内径別による生産品種数：21径種

- イ. 500φ台：2径種 ロ. 400φ台：6径種
 - ハ. 300φ台：11径種 ニ. 200φ台：2径種
- 以上合計：21径種

②特に品種の多い径種内訳：

- ※ 400φ台：455φ、450φ、440φ、435φ、420φ、
400φの6種
- ※ 300φ台：397φ、395φ、390φ、386φ、380φ、
355φ、354φ、352φ、350φ、340φ、
300φの11種

径種別年間生産概略数量：

- イ. 500φ台：7万本 ロ. 400φ台：21万本
 - ハ. 300φ台：98万本 ニ. 200φ台：51万本
- 中小型缶の生産径種が非常に多いため、中小型缶メーカーとしては以下に述べるような問題点を抱えております。
年間合計：177万本



抱えている問題点

- ①生産数量の割に径種が多いため、型変えの頻度が多く、径種が変わる度に、金型の変更から通過ラインの変更迄を行わなければならない為、生産性が上がらない。
- ②一般商品ではなく受注生産商品のため、在庫生産がしにくいこと、また径種が多いことから、ヤードの確保も困難な状況になってきている。
- ③一回の生産ロットが小さくなってきたため、納期設定に無理を生じることが多くなっている。

このような問題点の解消のため、出来るだけ以下の通り径種の集約をお願いする次第です。

径種集約のお願い

①径種の集約並びに対応板厚、容量：

呼び容量	150ℓ	100ℓ	50ℓ	20ℓ
呼び内径	508φ	450φ	390φ	285φ
主要板厚	0.4~0.8mm	0.6~1.0mm	0.6mm	0.6mm

②集約により期待される効果：

- イ. 生産径種を集約することにより、素材品種の集約ができ、生産能率の向上が図れる。
- ロ. 将来的には、メーカー相互間の委託生産も考えられ、基準品種を広範囲な地域へ供給する体制作りが可能となる。
- ハ. 運送経費の合理化、納入体制の短縮化が図れる。

中小型缶部会メンバー各社の製造ラインは、1ライン又は2ラインとなっております。ラインの合理化を図り、コストダウンを図るべく全力を傾注しておりますが、なかなか実現出来ない状況下にあります。現状の問題点及び径種集約について、ユーザー各位のご理解を頂きたく、提案させて頂きました。

なお、本件に関して、ご質問、コメント等がありましたら、ドラム缶工業会事務局までご連絡下さるようお願い申し上げます。

ICDMフロリダ役員会について

ICDM (International Confederation of Drum Manufacturers、国際鋼製ドラム製造業者連合会) の役員会が、1998年9月21日(月)22日(火)、アメリカ、フロリダ、ディズニー・ワールドで開催されました。その概要は以下の通りです。

開催日：1998年9月21日(月)及び22日(火)

出席者：永井ICDM会長および日本(JSDA)、米国(SSCI)および欧州(SEFA)のICDM3地域工業会の代表。(9名)

なお、日本からは、永井ICDM会長の他、安達理事長および藤野常務理事の3名が出席。

会議の内容：次の議題について3地域工業会からそれぞれ報告を行い、それに対して討議しました。

- ① 鋼製ドラムの国際標準化について
- ② 危険物輸送容器の試験方法基準について
- ③ マーケティング事項：生産統計報告

上記議題のうち、鋼製ドラムの国際標準化については、第2回ISO/TC122/WG6会議が1998年1月15日オランダ、デルフトで開催され、日本及び米国の反対にも関わらず、ユーザーサイドである欧州の国際企業に押し切れ、欧米タイプの海上コンテナ用ドラムを優先型ドラム(Preferred Target Optionと称している)としてISO規格に取り入れることが決まったという報告がありました。

また危険物輸送容器の試験方法基準については、5月18

日、19日にチェコ、プラハで開催されたCEN(欧州規格委員会)/TC261/SC1/WG6の会議で、CENのWGからISOの新WGに移ることが決定し、これにより欧州以外の米国、日本等のISOメンバーの国々も討議に参加できるようになったという報告がありました。

次に、今回の主要議題である来年の第4回ICDM国際会議に関して討議の結果、暫定的に以下の通り決定しました。

- ① 会期：1999年9月26日(日)～9月30日(木)
- ② 会議のテーマ：「It's a small world.」
- ③ 会議の内容：来年の会議は20世紀最後の会議であることもあり、従来の各地域の状況報告ではなく、各分野の専門家の発表を含めた啓蒙的な会議とし、ユーザー、サプライヤーにも積極的に参加してもらえらる会議とする。
- ④ 場所：グランド・フロリディアン・ホテル ディズニー・ワールド、オランドー、フロリダ、米国

なお、役員会終了後に開催されたICDM総会で、ICDM永井会長(ドラム缶工業会元理事長)が退任し、SSCI(米国ドラム缶工業会)のトリラ氏が今後3年間のICDMの新会長として選任されました。同時にJSDA安達理事長、SEFAソントン会長が副会長として選任されました。

ドラム缶こぼれ話

第二話

ドラム缶海を渡って 名古屋に上陸

わが国にドラム缶が渡来したのは、一体、いつの頃、どこの港にであろうか？—今回は、アメリカで生まれたドラム缶が日本に上陸するまでの軌跡を辿ってみよう。

* * *

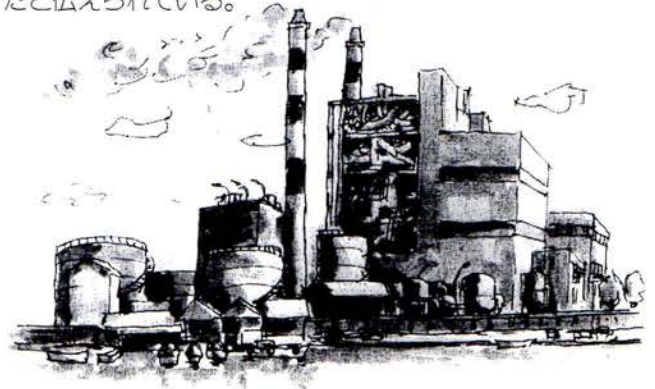
ドラム缶の用途は、昔は石油と相場が決まっていた。第一話に記したネリー・ブライ女史が現在の鋼製ドラム缶の原形を考案したのも、石油原油の輸送容器としてであった。当時の容器は、たらい、ウイスキー用木樽が中心で、油井から製油所に届くまでに中身は半減していたからである。女史はアメリカン・スチール・パレル社を設立し、ドラム缶の量産体制を確立した。しかし、事業経営はペンを操るようにはうまくいかず倒産、ドラム缶拡大発展の夢は他に譲らざるを得なかった。

1907年(明治40年)には胴溶接や捲締法も研究開発され、ひも出し、縁出しなどの新技術も生まれたが、強度等に問題があり、なお数年、需要は容易には拡大しなかった。しかし、1914年(大正3年)に第一次世界大戦が勃発するや、石油消費が急速に高まり、それに伴ってドラム缶は飛躍的増産を遂げる。皮肉なことではあるが、いつの世でも戦争が技術革新を促し、産業発達への牽引役を務めているのであ

る。ドラム缶も例外ではなかった。

第一次世界大戦(1914～1918)が終わり、1920年代に入ると新油田開発が盛んに行われたため、世界の石油需給は過剰気味で、わが国にも石油が安値で入ってくるようになった。これを受けて、日本石油は国産原油精製から輸入原油精製に転換し、1924年(大正13年)1月、消費地に近い神奈川県鶴見に輸入原油専門の製油所を建設した。わが国にドラム缶が渡来したのは、ちょうどこの時期であった。

この年、名古屋港に入港した米国船から、船の出入り商人が空ドラム缶を買取り、名古屋の石田商店の店頭陳列した。それを新潟の小倉石油(後に日本石油と合併)の担当者が感心して購入したのが、国内における鋼製ドラム缶流通の事始めである。ちなみに、そのドラム缶は1.2mm55ガロン、赤ペンキ塗装で、1円50銭で買取り、2円で売ったと伝えられている。



平成10年度上半期出荷実績

表一 平成10年度上半期(4月～9月)ドラム缶・缶種別・用途出荷本数

単位：千本

用途 缶種	石油	化学	塗料	食料品	その他	合計	前年比 %	
	200 Q 缶	878	4,083	302	62	170		5,495
ペール	6,040	5,141	375	—	347	11,903	92.5	
100 Q 缶	5	96	1		1	103	92.5	
50 Q 缶		146	2		12	160	93.3	
アス缶型	4	4				8	68.0	
その他容量缶	2	242		1	5	250	77.6	
200 Q	亜鉛鉄板缶		59	1	微	3	63	105.7
	ステンレス缶		5		微		5	88.2
小計		64	1		3	68	101.5	
中小型缶	亜鉛鉄板缶		100	1			101	88.2
	ステンレス缶		10		微		10	384.4
小計		110	1		微	111	94.6	
合計	6,929	9,886	682	63	538	18,098	90.7	
前年同期比	89.6	92.3	81.0	95.5	88.3	90.7	—	
構成比	19.5	71.2	5.1	1.0	3.2	100	—	

(注) 構成比は、出荷トン数の構成比。

平成10年度上半期の出荷実績は、表一に示す通り、200ℓ缶では平成9年同期に比べ、87.5%と12.5%減、実数にして約784千本の大幅な下落となりました。この理由は日本経済の状況を反映して需要が押しなべて減少しており、特に石油は12.5%、化学は11.7%、塗料については25.2%減と、自動車、家電、住宅産業等の内需減少及び東南アジア向け輸出の減少等の影響をもろに受けた数字となっております。ペール缶、中小型缶などを合わせた合計出荷本数でも平成9年同期に比べ、90.7%と約1割の減少となっています。平成10年下半期も、今のところ明るい見通しは得られない状況であり、政府による景気振興策が早期に実を結ぶことを期待しています。

シリーズ・オーケストラ演奏会

スチールドラムによる演奏会

(写真提供：広瀬弘三氏)



コ ラ ム

「菊薫る秋」とは言いふるされた字句ではあるが、今年は例年のような秋や冬が来るのか、むしろ、異常な季節になるのではないかなそんな予感がある。

イデオロギー対立の氷解、民族主義の地域紛争の勃発、宗教対立を根底とする頻発するテロ活動等世界は荒れまくっている。文明は、どんどん進化しているのに程度の差こそあれ、人類は、同じような争いを繰り返している。

経済面では、バブル景気の崩壊以来回復の兆しは全く見られない、唯々安く買ったり売ったりする事の繰

り返し、果てしなく右肩下がりがつづいている。

これらの現象は、過去の学問や経験に照らした尺度では、計り知れない状況下に世界が置かれているのではないかと懸念している。

私事で恐縮だが、この7月に父を84歳で亡くした。小生54歳で丁度ジェネレーションギャップ30年の付き合いであった。彼は自分の意見押し付けるタイプでなく、よく自分の失敗談を語ってくれ淡々とその後姿で我々子供達を導いてくれた。

温厚な人で、我々の教育や社会生活にも黙って後ろで見守ってくれ、殆ど口出しはしなかった。大概の事は、自分たちの判断で出来た。『酒は料理の調味料だ。』の教えを今でも

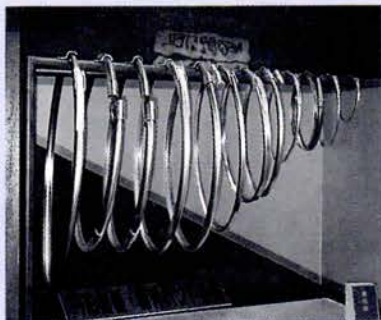
覚えている。

黒沢明氏も黄泉の世界に旅立ったが、ご子息の『父の遺言は彼の作品です』との会見での言葉が印象的であった。同氏の作品の中では、『生きる』に非常に感銘を受けた。多感期の頃に読んだジューヌ・ベルヌや手塚治虫の作品等と同様に、自分の人格形成に影響のあった人がいなくなることは寂しいが、その先人の思想を受け継いでこの混迷する時代に対処し生き抜くしかないのかと思うこの頃である。

そう言えば親父が酔っ払うとよく歌っていた

『命みじかし、恋せよ乙女……明日のつきーひーは無いーもーのを』

(東邦シートフレーム(株) 河辺記)



株式会社
城内製作所

弊社は、昭和40年、尼崎市城内で各種缶用バンドの専門メーカーとして誕生いたしました。平成4年3月に本社工場を名神高速道路尼崎インター南隣接地に移し、生産効率向上に努め、即納体制を整えてまいりました。今日がありますことは、お客様、お取引先等の温かいお引き立ての賜物と従業員一同深く感謝いたしております。

今後も缶用バンドの専門メーカーとして供給責任を自覚し、品質第一、即納体制を旨として研鑽を積み、ますます多様化するニーズに敏速に対応いたす所存です。どうかなお一層のご指導と引続きご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



東邦工板
株式会社

当社は、常磐高速土浦北インターから5分、国道6号線、125号線からも近く、物流の環境に恵まれ、また、北西に筑波山、東に霞ヶ浦、南に筑波研究学園都市と自然の環境に恵まれた場所で鋼製ドラム用オープンバンドを製造、販売しております。

顧客優先を基本とし、最新鋭の設備を導入し品質管理と即納体制を整えてユーザーよりご愛顧を賜っております。年内には新鋭溶接機を導入する予定です。

また、ドラム用バンドの他に、屋根材（JIS表示許可工場）・壁材・ユニットハウス・各種建材など多彩な加工から販売・建築板金工事まで幅広い活動を行っており、建設業でも高い評価を得ております。

今後共、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

《賛助会員》

エノモト工業株 三恵マツオ株 丹南工業株 株大和鐵工所
三喜プレス工業株 株城内製作所 東邦工板株 株水上工作所

ドラム缶工業会


東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2989

ADK 秋田ドラム工業株式会社
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105

 川鉄コンテナ株式会社
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711

 協和容器株式会社
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371


 鋼管ドラム株式会社
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711


 斎藤ドラム缶工業株式会社
横浜市鶴見区生妻3-15-14 ☎ 045-521-3881

 山陽ドラム缶工業株式会社
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680


 新邦工業株式会社
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285

 ダイカン株式会社
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4601


 大同鉄器株式会社
尼崎市杭瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468


 株式会社東京ドラム罐製作所
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-6511


 東邦シートフレーム株式会社
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212


 株式会社長尾製缶所
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591

 日鐵ドラム株式會社
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311

 株式会社前田製作所
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101

 森島金属工業株式会社
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551

 株式会社山本工作所
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431

 株式会社ユニコン
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.21(平成10年11月3日発行)

発行人 ドラム缶工業会
事務局長 藤野 泰弘

本誌は再生紙を使用しています。